

# TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

**Vol.74**

配信日：2024年6月7日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

## レポート(report)

### “ 2024年台湾日本再生医療フォーラム報告 台湾日本JPTW ”

会長 月岡庸之 先生

2024年5月31日に国立台湾大学カンファレンスセンターにおいて Taiwan Japan Form on Regeneration Medicine が開催された。

今回は以前から東京形成歯科研究会と親交のある台湾再生医療学会の Tong-Huie Lin 教授の計らいで日本における第3種再生医療である PRP 派生物質の臨床応用についてその状況説明をすることを目的に、認定再生医療等委員会を有している当会の施設長奥寺元が招待された。

プログラムは、オープニングリマークとして台湾衛生福祉部中央保険署(厚生労働省)石栄良署長(厚生労働大臣)から、再生医療を台湾での成長戦略の一つとして推進していくため、日本とも協力を続けていく方向を続ける方向が示されたことに続き、施設長奥寺元先生が A refront of the oral regenerative medicine の演題でサイナスを含めた上顎骨の顎裂及び減形成に対しての再生医療応用と日本の取り組みについてアイスブレイク講演を行った。

続いて国立台北科技大学の Prof.Hsu-Wei Fang から台湾の再生医療の取り組みとその進捗過程について解説があった。全身の個別臓器への応用をその過程をプロトコルに基づき解説し、製品としての安全性を確保する道筋の困難さについて言及した。第一部の最終演者は会長の月岡庸之が Bone regeneration and aesthetic recovery in implant clinical practice の演題で審美領域における再生治療の実際について抜歯窩の選択基準と治療時期を交えて解説を試みた。

コーヒブレイクを挟み第2部は Asia pacific academy of implants dentistry 会長である Prof.Sebastian Tseng から Stem cell Therapy の一端としてエクソソームの応用について現状と可能性をその機能性を中心に詳細な解説があった。彼は臨床医でもあるが、再生医療を自医院の治療に細胞レベルで使用する環境を整えて自社の製品として開発を強力に推進していた。

続いて理事・増木英郎から PRGF の基礎と臨床について解説講演が行われた。理論と作成方法及び適応症についてケースを交え詳細な報告は聴衆の興味を大いに引いた。

第2部最後の演者として台湾技術協会理事長 Dr.Lin Che-An から ‘Cell as drug’ として薬ではなく細胞を利用した再生治療の有効性について講演があり、拡大のボトルネックがコストであり下げするためには大量生産が鍵であることが示されたが、西洋医学と東洋医学の文化的相違がその背景にあることも言及があった。

短い滞在ではあったが台湾の国を挙げての再生医療への取り組みが想像以上に進んでいることと、研究

ベースと商業ベースの融合がスムーズに行われていることに大きな驚きを感じ、臨床医と開業医の垣根の低さも手伝ってフィードバックが早い状態で事業が進む環境に羨ましさを隠せなかった。また大学院生、医局員の参加も積極的であった。翻って日本の現状を鑑みると iPS を始めとした高付加価値高技術はあるものの普及を促進するための産学連携の事業体型は未だ進みが遅く、アジアパシフィックの中での主導権を握ることの困難さを痛感した学会参加であった。

一般社団法人 東京形成歯科研究会 会長 月岡庸之



台湾衛生福祉部中央保険署(厚生労働省) 石栄良署長  
講演:台湾における再生医療の成長戦略について(テーマ)